

# 学校通信

## 1. はじめに

2月14日(日)第105回看護師国家試験が行われました。36回生3年生46名が受験しました。2月13日(土)朝、学校を出発しました。12月の実習が終了した後、一斉に集中した受験勉強に入りました。3年生の担任を中心に、教員や院内講師へお願いして特別講義を行いました。模擬試験や過去問題を繰り返し、苦手科目の強化学習を行いました。明けても暮れても勉強の日々が続いたストレスとも闘い、幸いにして体調管理も大きく崩すことなく、受験が終了しました。本当に、よく頑張りました。合格発表は、3月25日(金)となります。全員の合格を祈ります。

## 2. 学校生活

### <卒業記念講演会>

日 時：平成28年2月24日(水) 13:30~15:00

テーマ：緩和ケアでの看護師のかかわり方～コミュニケーションスキルの必要性～

講 師：国立研究開発法人国立研究センター東病院

副看護部長 關本 翌子 先生



3年生の希望調査で、終末期の患者様の緩和ケアについてのお話を聞きたいという要望がたくさんありました。がん看護認定看護師として、臨床でご活躍されている關本先生にお伺いし、こころよく講義をお引き受け頂き講演会の運びとなりました。現場でご活躍される關本先生が、これまでにかかわってこられた様々な状況の患者様に対する思いや看護に対するお考えをお聞きし、学生ひとりひとりの表情も真剣なまなざしでした。

～講演会後のアンケート調査の自由記載の内容をいくつか紹介いたします。～

### 3年生

①患者さんの前で泣いたり怒ったりすることはよくないと感じていたが、講演を聞いて、泣いたり怒ったりしてもいいのだと分かった。そして、その後客観的に考えることが大切だと学んだ。また、患者を理解した気になるのではなく、理解しようとする姿勢を見せること、理解者になることが大切であると学んだ。

②一番印象に残ったことは、がん患者さんはQOLが低下していく中で出来ることは減っていくが今できることではなくても、患者さんの希望は聞かなければならないということでした。その患者の苦しみ、患者の支えをキャッチすることが重要であると知りました。

③がん患者が抱える苦痛を理解しようとする姿勢が大切である。患者の言葉を言葉通りに受け取るのではなく、その言葉に隠された患者の思いを察することが重要である。

④患者さんの良き理解者になれるよう、姿勢だったり態度だったり、スキルをみがいて行こうと思いました。看護技術は、数をこなすと慣れがでてくるが、患者との関わりはひとりひとり違うので、意識していこうと思いました。

⑤今まで共感など、漠然としか理解できていなかったが、患者さんの思いを聞き、その思いをこちらがどうとらえたかを患者さんに伝えることが共感であるということを知った。また、わかったつもりになるのではなく、患者さんの思いを理解しようとする姿勢が大切であると学んだ。具体的なコミュニケーションの方法についても教えて頂いたので、今後、臨床に出た際にも生かしていきたい。

⑥今まで心残りだったことが、今回の講演を聞いて整理できた。自分がしてきたことは間違っていないと、コミュニケーションをとるだけでも患者さんに伝わってたと考えるとよかったと考えることができた。自分の行った看護を振り返ることができてこころの整理ができるようになる講演だった。

⑦実習でもがんの患者さんを受け持たせていただき、日に日に変化していく患者さんに何かできないのかと毎日考えながら過ごしていた。今回の講演で「分からなくとも分かろうとすることはできる」という話を聞いて、自分はわからないなりに患者さんのことを知ろうと分かろうとしてかかわることはできていたのかなと思えた。

### 2年生

①患者さんに共感するということは、相手を理解することが必要であり、あなたの事を理解しようとしているということを相手に伝えるようにかかわることがとても重要であると感じた。その際には、声の調子、トーンを観察して、相手と同じような声の調子、トーンで話すことで相手が話しやすくなるということも学べた。

②終末期の看護をまだ経験していないため、患者との関わりやコミュニケーションの取り方が全く分からなかった。しかし、終末期だからといってかまえるのではなく、普通に接することが重要だと思った。だが、その関わりの中にもより共感する、傾聴する、察するなどの技術を丁寧に行うことが重要であると

感じた。また、患者だけではなく、家族も含めた看護を行うことで、その人が悔いなく人生を全うできるのだと学んだ。

③がん患者は、年々増加しており、5年生存率は増加している。そのため、より社会に適応していくような看護を行う必要がある。共感することは、自分が感じたことを素直に伝えることでもよい。また、現状の理解を確認する時は、必ずオープンクエッションで患者の思いを聞くことが大切。何でも声をかけたらいいかわからない時は5W1Hを活用するとよい。今できなくても、希望を聞くことはとても大切。つらい気持ちは理解できないが、理解しようとするのが大切。看護の中心は患者であるが、その家族へ援助することも大切で家族の思いを患者に伝えるということも必要である。

#### 1年生

①患者さんへのコミュニケーションの取り方がとても詳しくて分かりやすかったです。視覚や聴覚からの情報をもとに様々なスキルを身につけてコミュニケーションをとることが大切であると分かりました。患者さんにどのような声かけをしたらよいのか、納得してもらうためにはどうしたらよいのか分かりました。患者さんにどのような声かけをしたらよいのかなど知ることが出来ました。私はまだ実習は1回しか行ったことがなく、終末期の患者さんを受け持ったことはないけれど、どんなふうに接したらよいのかというのが少しわかり良かったです。最後の言葉には、患者さんの思いがすごく詰まっていることがわかり、私もそのような言葉を言ってもらえるような看護ができるようにしたいと思いました。

### <クリスマス演奏会>

12月21日(金)クリスマス演奏会にて、新潟病院に入院中の患者様を訪問しました。在校生により、ハンドベルの演奏とともに「星に願いを」「赤鼻のトナカイ」「きよしこの夜」「あ々人生に涙あり」を熱唱しました。



## <ケーススタディ発表会>



3年生の看護研究の授業として、ケーススタディの発表を行いました。いつもは、3年生のみで発表を行っていましたが、今年度は、1年生、2年生も発表会を聞きました。白熱した意見交換が行われ、学びが深まる会となりました。積極的な意見交換された学生を各学年で選び、感想をまとめて頂きました。

### 38回生（1年生）福崎楓さん

私は、母性看護学実習を経験された先輩のケーススタディの発表が印象に残りました。褥婦さんは、授乳や子育てに対し多くの不安を抱えており、学生は、不安を軽減し、身体的、精神的に支援していくことが大事と思いました。また、相手の目線に立った援助が大切であると思いました。先輩の貴重な体験より学ばせていただき、これから始まる実習に活かしていきたいと思います。

### 37回生（2年生）今井早紀さん

私は看護研究とはどういったものなのかよく分かっていませんでした。今回、3年生の看護研究の発表に参加し、看護研究とはどういうものなのかを知ることが出来ました。また、学校行事として1年生の時と、今年の11月に学会に参加しました。学会での内容は難しいことが多く話の内容を理解することが大変でした。しかし、学校での看護研究の発表は先輩の発表であり身近に感じることが出来ました。

私は終末期にある方のケーススタディの発表を聞きました。まだ、終末期については授業でしか知らなかったため、実際の現場での様子を知り、患者様の気持ちや看護者としてどう感じたのか、など、授業では分からないこともたくさん聞くことが出来ました。私の興味のある分野の話や、様々な人の体験や考えを聞き、今後の実習に活かしていきたい内容でした。そして、今回の発表に参加することで自分自身の看護観について考えるいい機会になったと思いました。

### 36回生（3年生）保坂未来さん

今回ケーススタディを行ったことで、今までの実習で実施してきた援助や関わりを振り返り、自分の看護観について考えることができ、自分が看護を行う上で大切にしていることを再確認することができました。また、今年度のケーススタディ発表会は1、2年生も参加して行ったため、質問や意見交換も活発に行われ、内容の濃い時間でした。当日は、自分以外の人の発表を聞いて学ぶことも多くあり、今後の看護に活かすいい機会となりました。



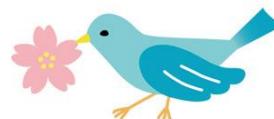
### 3. お知らせ

平成 28 年 10 月 31 日までに、新しい学生寮が建設される予定です。建築予定の新潟病院敷地内の地質調査が終了し、4 月より建築工事が始まる予定です。現在の学生寮は、新校舎の建築まではこれまで同様に入居可能となっています。詳細については、予定が決まり次第お知らせします。

平成 28 年 4 月 22 日 (金) は、第 10 回学生フォーラムが幕張メッセにて開催されます。関東信越ブロック内にある国立病院機構の附属する看護学校 9 校で開催されるイベントです。当校は、今回、当番校となっています。37 回生は、開催に向けての様々な準備を行っています。

38 回生は、基礎看護学実習Ⅰという初めての受け持ち患者様の看護を行う実習を終えました。まとめの会では、生き生きとしたまなざしで様々な体験を語り合い、次の実習への課題を持つことが出来ました。実習を終えた 1 年生は、やり遂げた自信の表情と、「何のために学ぶのか」という学ぶ意味を実感し、「基礎看護学実習Ⅱに向けて勉強や技術を磨いていきたい。」と感想を述べていました。

### 4. 今後の予定



(基礎看護学実習Ⅰ 1 年生の様子)

- 3 月 3 日 (木) 36 回生卒業式
- 3 月 7 日 (月) 学生フォーラム下見準備
- 3 月 15 日 (火) 終業式
- 3 月 16 日～4 月 5 日 春季休業
- 4 月 7 日 (木) 入学式 入寮式
- 4 月 22 日 (金) 第 10 回学生フォーラム

### 5. あとがき

#### 【編集後記】

保護者の方におかれましてはご清祥のこととお喜び申し上げます。  
このたび、学校通信を発行する運びとなりました。

2016 年 1 月は、たくさんの雪が降りました。今のところ、校内ではインフルエンザの罹患がありません。3 月の春の訪れまで、残寒を乗り切って体調管理を整えて行きたいと思います。今後とも、温かく見守りいただきますよう宜しくお願い申し上げます。

新潟病院附属看護学校教職員一同

